

# 1. 人口動態総覧

平成 26 年人口動態調査の結果は、表 1 のとおりである。

表 1 人口動態の概況

	三 重 県					全 国		
	実 数			率		1日当り件数 平均発生間隔	率	
	平成 26 年	平成 25 年	対前年 増減	平成 26 年	平成 25 年		平成 26 年	平成 25 年
出生	13,727	14,514	△ 787	7.7	8.1	37.6	8.0	8.2
死亡	19,525	19,690	△ 165	10.9	10.9	53.5	10.1	10.1
乳児死亡	27	44	△ 17	2.0	3.0	0.1	2.1	2.1
新生児死亡	15	22	△ 7	1.1	1.5	0.0	0.9	1.0
自然増加	△ 5,798	△ 5,176	△ 622	△3.2	△2.9	△15.9	△2.1	△1.9
死産	308	304	4	21.9	20.5	0.8	22.9	22.9
自然死産	157	143	14	11.2	9.7	0.4	10.6	10.4
人工死産	151	161	△ 10	10.8	10.9	0.4	12.3	12.5
婚姻	8,555	8,844	△ 289	4.8	4.9	23.4	5.1	5.3
離婚	3,098	3,281	△ 183	1.73	1.82	8.5	1.77	1.84

## 2. 出生

### (1) 出生数・出生率・合計特殊出生率

出生数、出生率及び合計特殊出生率の推移は、表 2、図 1 及び図 2 のとおりである。本県における出生数は、平成 19 年以降減少しており、平成 26 年は前年より 787 人減少した。また、出生率については前年に比べ、0.4 ポイント下降している。

合計特殊出生率は、前年に比べ 0.04 ポイント下降している。

表 2 年次別出生数、出生率及び合計特殊出生率

年次	出生数		出生率		合計特殊出生率	
	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国
昭和 25 年	37,240	2,337,507	25.5	28.1	...	3.65
30	25,456	1,730,692	17.1	19.4	...	2.37
35	24,113	1,606,041	16.2	17.2	1.95	2.00
40	27,057	1,823,697	17.9	18.6	2.19	2.14
45	26,154	1,934,239	16.9	18.8	2.04	2.13
50	25,862	1,901,440	15.9	17.1	1.99	1.91
55	21,446	1,576,889	12.7	13.6	1.82	1.75
60	19,745	1,431,577	11.3	11.9	1.80	1.76
平成 2 年	17,917	1,221,585	10.1	10.0	1.61	1.54
7	17,500	1,187,064	9.6	9.6	1.50	1.42
12	17,726	1,190,547	9.5	9.5	1.48	1.36
17	15,345	1,062,530	8.4	8.4	1.36	1.26
20	15,633	1,091,156	8.6	8.7	1.38	1.37
21	15,614	1,070,035	8.6	8.5	1.40	1.37
22	15,262	1,071,304	8.4	8.5	1.51	1.39
23	15,080	1,050,806	8.3	8.3	1.47	1.39
24	14,729	1,037,231	8.1	8.2	1.47	1.41
25	14,514	1,029,816	8.1	8.2	1.49	1.43
26	13,727	1,003,539	7.7	8.0	1.45	1.42

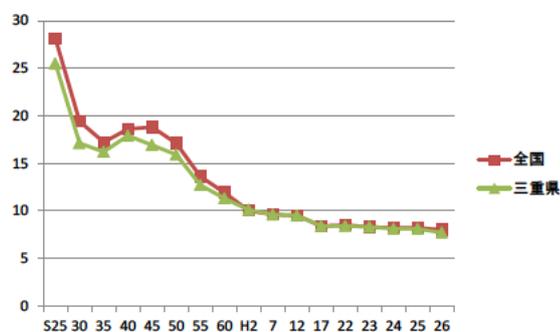


図 1 出生率の推移

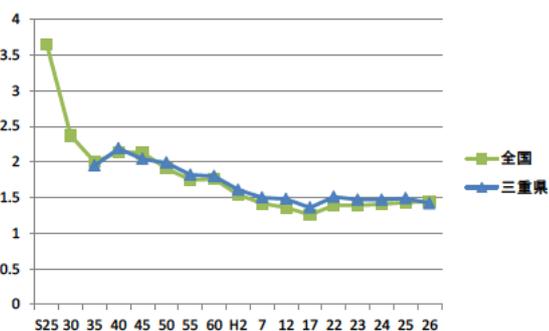


図 2 合計特殊出生率の推移

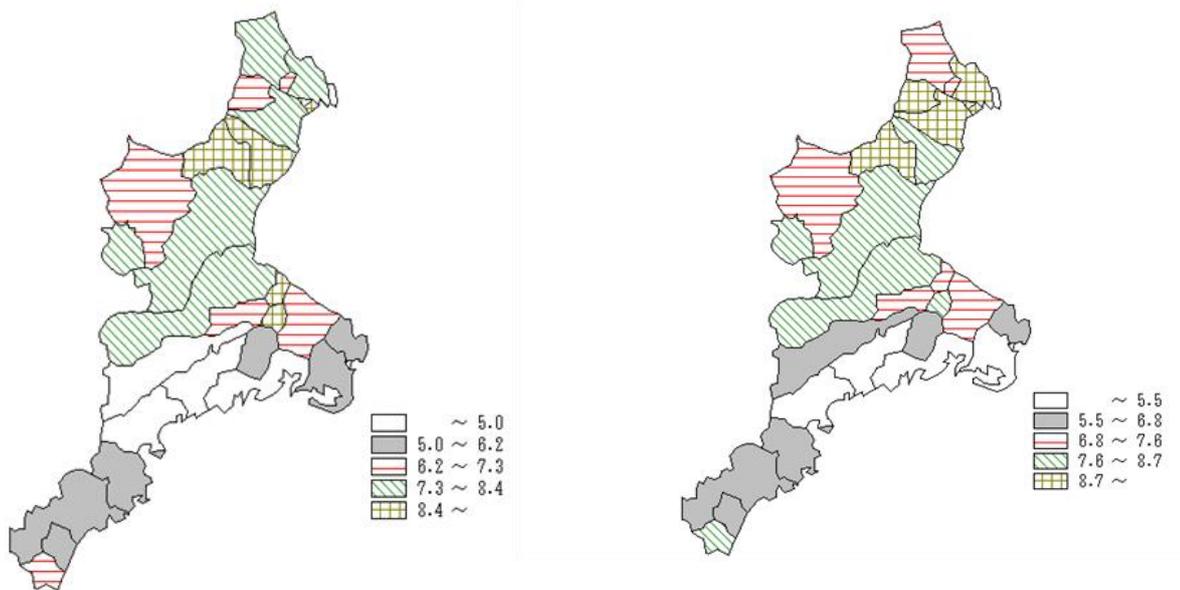
(2) 市町別にみた出生

市町別出生率は、表3のとおりである。最も高かったのは川越町の12.9、次いで朝日町が9.3、玉城町が9.1などとなっている。

また、市町別の出生率を5階級に区分し、地図に示した結果は図3のとおりである。

表3 市町別出生率

市	出生率	市	出生率	町	出生率	町	出生率
三重県	7.7	名張市	7.6	木曾岬町	4.2	玉城町	9.1
		尾鷲市	5.2	東員町	7.0	度会町	5.8
津市	7.3	亀山市	9.0	菰野町	7.2	大紀町	4.7
四日市市	8.3	鳥羽市	5.0	朝日町	9.3	南伊勢町	4.0
伊勢市	7.2	熊野市	5.3	川越町	12.9	紀北町	4.3
松阪市	7.7	いなべ市	7.3	多気町	6.2	御浜町	5.5
桑名市	8.1	志摩市	5.5	明和町	8.5	紀宝町	6.7
鈴鹿市	8.4	伊賀市	6.6	大台町	4.2		



平成 26 年

平成 25 年

図3 市町別出生率（5階級区分）

(3) 出生順位及び母の年齢別にみた出生

出生順位別の出生割合は、図4のとおりである。全出生子13,727人のうち、第1子が45.3%、第2子が37.6%、第3子が13.6%などとなっており、前年より第1子、第2子の割合が減少している。一方で第3子、第4子の割合が増加している。

また、母の年齢階級別出生数及び割合は、表4のとおりである。全国では、30～34歳の母からの出生が35.8%と最も多く、次いで25～29歳の母からの出生が26.7%などとなっている。また40～44歳の母からの出生割合が年々増加している。

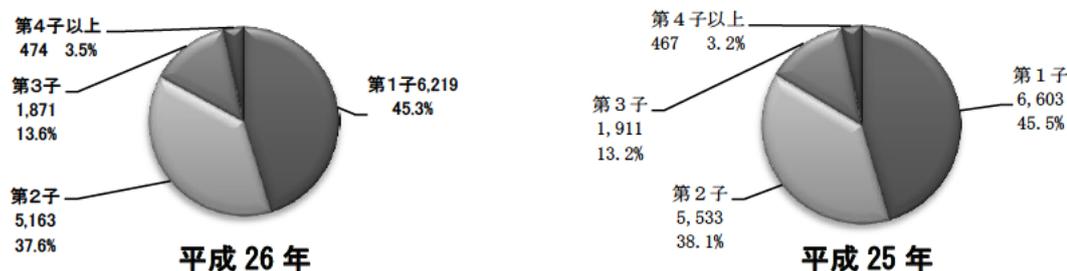


図4 出生順位別出生割合

表4 母の年齢階級別出生数とその割合

(単位人・%)

年次	～19歳	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～
昭和25年	1,928 (5.1)	23,963 (63.3)		11,474 (30.3)		516 (1.3)	
30	398 (1.6)	8,031 (31.5)	10,236 (40.2)	4,847 (19.0)	1,570 (6.2)	352 (1.4)	22 (0.1)
35	322 (1.3)	7,938 (32.9)	11,057 (45.8)	3,797 (15.7)	859 (3.6)	149 (0.6)	7 (0.1)
40	356 (1.3)	8,887 (32.9)	12,042 (44.5)	4,652 (17.2)	998 (3.6)	109 (0.4)	9 (0.1)
45	252 (1.0)	8,176 (31.3)	12,818 (49.0)	3,947 (15.1)	857 (3.2)	100 (0.4)	4 (0.0)
50	249 (1.0)	7,710 (29.8)	13,868 (53.6)	3,386 (13.1)	589 (2.3)	63 (0.2)	2 (0.0)
55	206 (1.0)	5,017 (23.4)	11,430 (53.3)	4,254 (19.8)	484 (2.3)	53 (0.2)	2 (0.0)
60	255 (1.3)	4,355 (22.1)	10,038 (50.8)	4,209 (21.3)	809 (4.1)	77 (0.4)	2 (0.0)
平成2年	272 (1.5)	3,205 (17.9)	9,104 (50.8)	4,343 (24.2)	866 (4.8)	125 (0.7)	2 (0.1)
7	208 (1.2)	3,061 (17.5)	7,961 (45.5)	5,066 (28.9)	1,087 (6.2)	112 (0.6)	5 (0.1)
12	320 (1.8)	2,494 (14.1)	7,612 (42.9)	5,643 (31.8)	1,496 (8.4)	160 (0.9)	1 (0.0)
17	255 (1.7)	1,954 (12.7)	5,284 (34.4)	5,809 (37.9)	1,808 (11.8)	229 (1.5)	6 (0.0)
23	206 (1.4)	1,706 (11.3)	4,657 (30.9)	5,238 (34.7)	2,822 (18.7)	441 (2.9)	10 (0.1)
24	192 (1.3)	1,536 (10.4)	4,474 (30.4)	5,076 (34.5)	2,957 (20.1)	485 (3.3)	9 (0.1)
25	237 (1.6)	1,474 (10.2)	4,297 (29.6)	4,966 (34.2)	2,973 (20.5)	557 (3.8)	10 (0.1)
26	190 (1.3)	1,345 (9.8)	4,111 (30.0)	4,747 (34.6)	2,706 (19.7)	615 (4.5)	13 (0.1)
全国 (平成26年)	13,011 (1.3)	86,590 (8.6)	267,847 (26.7)	359,323 (35.8)	225,889 (22.5)	49,606 (5.0)	1,273 (0.1)

注・括弧内の数値は、その年の総出生数に対する各母の年齢階級における出生数の割合(%)を表す。

・年齢不詳があるため、年齢階級別の合計が総出生数と一致しないことがある。

### 3. 死亡

#### (1) 死亡数・死亡率

死亡数及び死亡率の推移は、表5及び図5のとおりである。本県における死亡数は増加する傾向にあるが、平成26年は前年と比べて165人減少した。

また、死亡率については、前年と同じであった。

表5 年次別死亡数及び死亡率

年次	死亡数		死亡率	
	三重県	全国	三重県	全国
昭和25年	16,210	904,876	11.1	10.9
30	12,190	693,523	8.2	7.8
35	12,981	706,599	8.7	7.6
40	12,551	700,438	8.3	7.1
45	12,679	712,962	8.2	6.9
50	12,240	702,275	7.5	6.3
55	12,154	722,801	7.2	6.2
60	12,724	752,283	7.3	6.3
平成2年	13,630	820,305	7.6	6.7
7	15,072	922,139	8.3	7.4
12	15,292	961,653	8.3	7.7
17	17,154	1,083,796	9.4	8.6
20	17,904	1,142,407	9.8	9.1
21	17,590	1,141,865	9.6	9.1
22	18,691	1,197,012	10.3	9.5
23	19,271	1,253,066	10.6	9.9
24	19,210	1,256,359	10.6	10.0
25	19,690	1,268,436	10.9	10.1
26	19,525	1,273,004	10.9	10.1

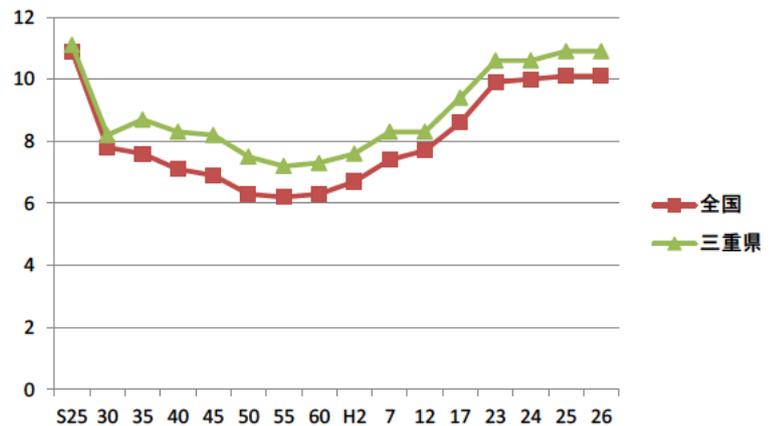


図5 死亡率の推移

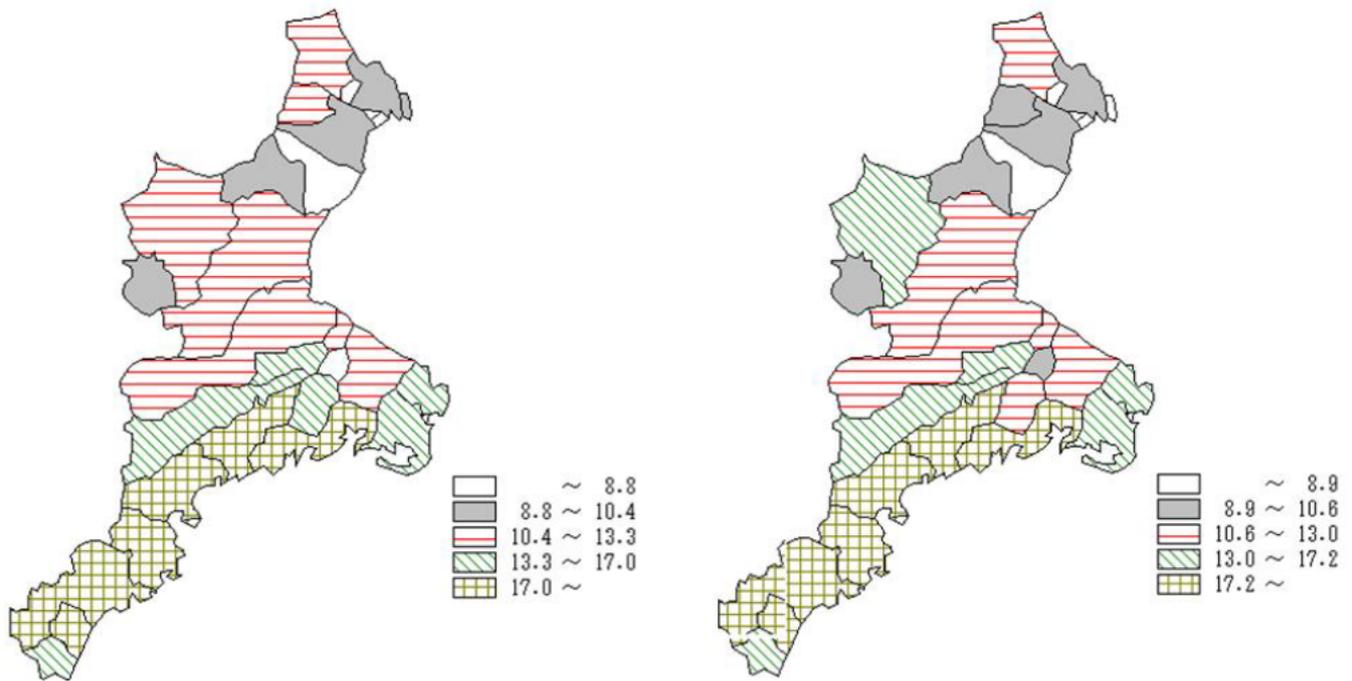
#### (2) 市町別にみた死亡

市町別死亡率は、表6のとおりである。最も高かったのは南伊勢町の22.2、次いで熊野市が19.8、尾鷲市が18.7などとなっている。

また、市町別の死亡率を5階級に区分し、地図に示した結果は図6のとおりであり、南勢志摩及び東紀州地域で高い傾向にあることが読み取れる。

表6 市町別死亡率

市	死亡率	市	死亡率	町	死亡率	町	死亡率
三重県	10.9	名張市	9.8	木曾岬町	8.8	玉城町	7.7
津市	10.8	尾鷲市	18.7	東員町	7.8	度会町	14.4
四日市市	9.2	亀山市	9.6	菟野町	10.7	大紀町	18.4
伊勢市	11.6	鳥羽市	15.4	朝日町	5.4	南伊勢町	22.2
松阪市	11.1	熊野市	19.8	川越町	8.1	紀北町	17.8
桑名市	9.1	いなべ市	10.4	多気町	13.3	御浜町	17.0
鈴鹿市	8.3	志摩市	15.1	明和町	10.4	紀宝町	13.6
		伊賀市	12.7	大台町	16.7		



平成 26 年

平成 25 年

図 6 市町別死亡率（5 階級区分）

#### 4. 死因

##### (1) 死因順位

死因順位別死亡数及び死亡率は、表 7 のとおりである。本県の死亡総数のうち、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患のいわゆる三大死因による死亡数の占める割合は 50.9%と、全国の 53.4%より低くなっている。

表 7 死因順位別死亡数及び死亡率

死因	死 亡 数			死亡率(人口 10 万対)				構 成 比 (%)	
	三重県			三重県		全国		三重県	全国
	平成 26 年	平成 25 年	対前年 増減	平成 26 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 25 年	平成 26 年	
総数	19,525	19,690	△165	1089	1092.7	1014.9	1009.1	100.0	100.0
1 悪性新生物	5,172	5,229	△57	288.5	290.2	293.5	290.3	26.5	28.9
2 心疾患(高血圧性を除く)	2,986	2,936	50	166.5	162.9	157	156.5	15.3	15.5
3 脳血管疾患	1,772	1,857	△ 85	98.8	103.1	91.1	94.1	9.1	9.0
4 肺炎	1,678	1,823	△ 145	93.6	101.2	95.4	97.8	8.6	9.4
5 老衰	1,678	1,555	123	93.6	86.3	60.1	55.5	8.6	5.9
6 不慮の事故	704	687	17	39.3	38.1	31.1	31.5	3.6	3.1
7 腎不全	405	431	△26	22.6	23.9	19.8	20.0	2.1	1.9
8 自殺	310	348	△38	17.3	19.3	19.5	20.7	1.6	1.9
9 大動脈瘤及び解離	281	281	0	15.7	15.6	13.1	12.8	1.4	1.3
10 慢性閉塞性肺疾患	242	266	△24	13.5	14.8	12.9	13.1	1.2	1.3

注) 厚生労働省公表数値を使用している。

## (2) 年齢別死因

本県における年齢階級（5歳階級）別にみた三大死因の死亡数は、図7のとおりである。また、年齢階級別にみた死因順位は、表8のとおりである。35～39歳から80～84歳までは「悪性新生物」、85歳以上は「心疾患」が1位となっている。一方、30～34歳より年齢の低い階級では「自殺」、「不慮の事故」など外因死が大きな割合を占めている。

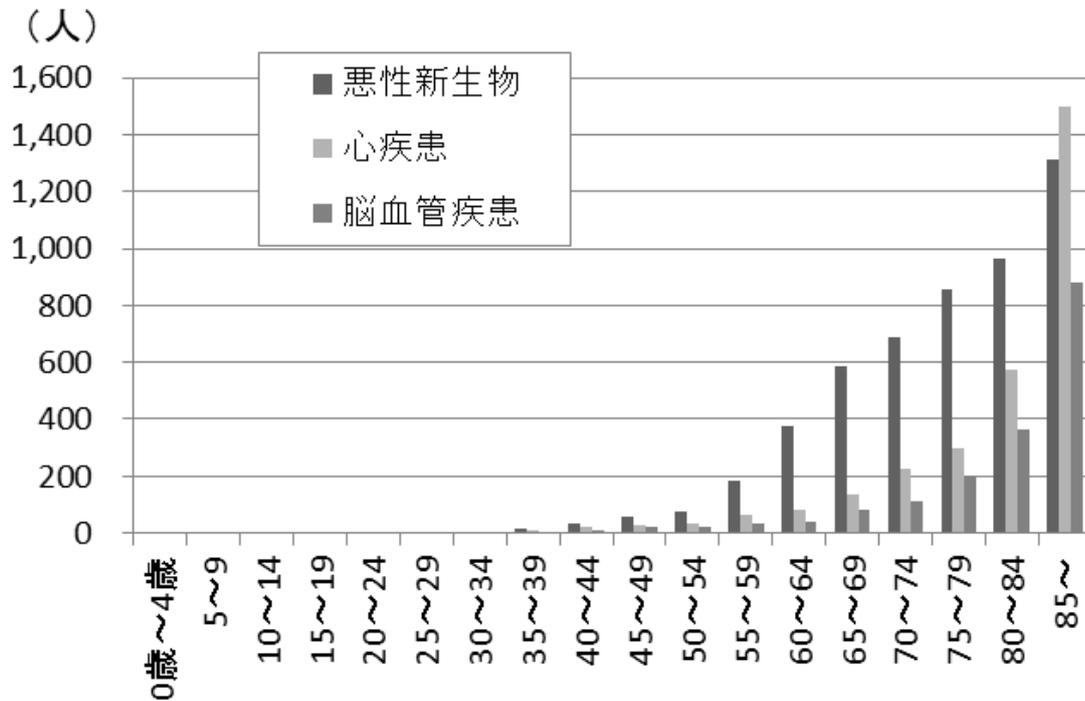


図7 年齢階級（5歳階級）別にみた三大死因の死亡数

表8 年齢階級別にみた死因順位－死亡率（人口10万対）・割合（％）

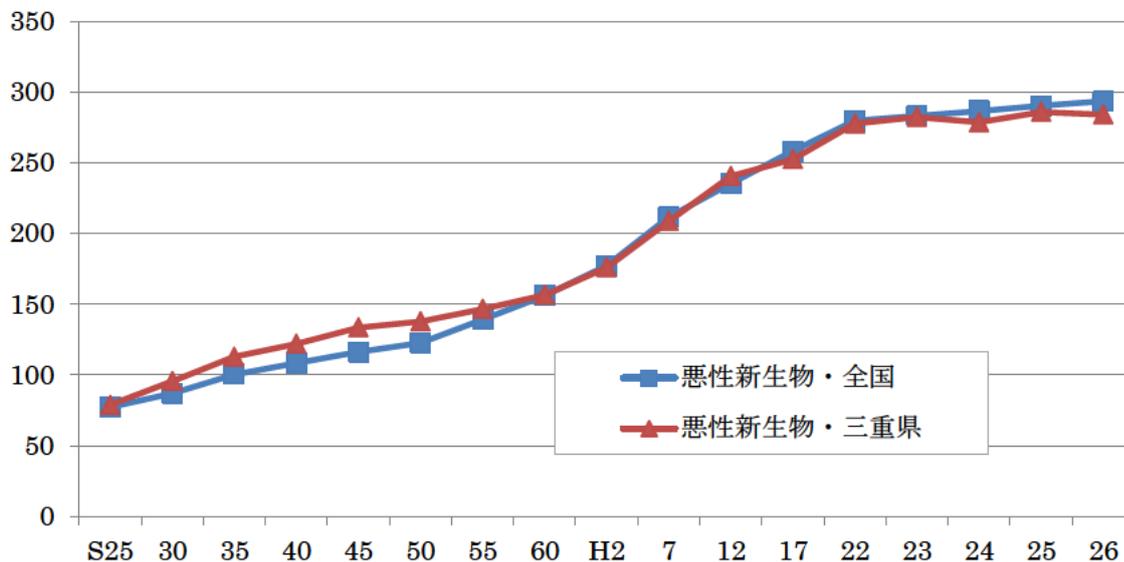
(歳) 年齢	1		2		3		4		5	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
総数	悪性新生物	284.1 (26.5)	心疾患(高血圧性を除く)	164.0 (15.3)	脳血管疾患	97.3 (9.1)	肺炎	92.2 (8.6)	老衰	92.2 (8.6)
0	周産期に発生した病態	72.4 (37.0)	先天奇形、変形及び染色体異常	57.9 (29.6)	敗血症	7.2 (3.7)	悪性新生物	7.2 (3.7)	心疾患(高血圧性を除く)	7.2 (3.7)
1～4	悪性新生物	3.2 (18.2)	その他の神経系の疾患	3.2 (18.2)	肺炎	3.2 (18.2)	敗血症	1.6 (9.1)	脳血管疾患	1.6 (9.1)
5～9	先天奇形、変形及び染色体異常	2.5 (33.3)	不慮の事故	2.5 (33.3)	悪性新生物	1.3 (16.7)	不慮の事故	1.3 (12.5)	他殺	1.3 (12.5)
10～14	悪性新生物	3.5 (37.5)	自殺	2.3 (25.0)	不慮の事故	1.2 (12.5)				
15～19	自殺	6.6 (37.5)	不慮の事故	5.5 (31.3)	その他の新生物	1.1 (6.3)	心疾患(高血圧性を除く)	1.1 (6.3)	脳血管疾患	1.1 (6.3)
20～24	自殺	26.7 (55.0)	不慮の事故	8.5 (17.5)	心疾患(高血圧性を除く)	6.1 (12.5)	悪性新生物	3.6 (7.5)	その他の神経系の疾患	1.2 (2.5)
25～29	自殺	23.9 (62.5)	不慮の事故	6.0 (15.6)	悪性新生物	3.6 (9.4)	その他の新生物	1.2 (3.1)	大動脈瘤及び解離	1.2 (3.1)
30～34	自殺	22.7 (44.0)	不慮の事故	8.2 (16.0)	悪性新生物	5.2 (10.0)	心疾患(高血圧性を除く)	3.1 (6.0)	脳血管疾患	2.1 (4.0)
35～39	悪性新生物	13.6 (20.0)	自殺	12.8 (18.8)	心疾患(高血圧性を除く)	10.2 (15.0)	不慮の事故	6.8 (10.0)	その他の神経系の疾患	5.1 (7.5)
40～44	悪性新生物	23.5 (24.6)	自殺	20.6 (21.5)	心疾患(高血圧性を除く)	16.2 (16.9)	不慮の事故	8.1 (8.5)	脳血管疾患	5.9 (6.2)
45～49	悪性新生物	50.3 (31.4)	心疾患(高血圧性を除く)	23.5 (14.7)	自殺	21.0 (13.1)	脳血管疾患	17.6 (11.0)	不慮の事故	14.3 (8.9)
50～54	悪性新生物	69.5 (32.1)	心疾患(高血圧性を除く)	32.1 (14.8)	自殺	23.2 (10.7)	脳血管疾患	20.5 (9.5)	不慮の事故	10.7 (4.9)
55～59	悪性新生物	164.7 (43.8)	心疾患(高血圧性を除く)	57.3 (15.3)	脳血管疾患	30.9 (8.2)	自殺	23.7 (6.3)	不慮の事故	21.8 (5.8)
60～64	悪性新生物	294.6 (51.1)	心疾患(高血圧性を除く)	63.3 (11.0)	脳血管疾患	31.3 (5.4)	不慮の事故	25.8 (4.5)	肺炎	24.2 (4.2)
65～69	悪性新生物	443.5 (50.5)	心疾患(高血圧性を除く)	102.4 (11.7)	脳血管疾患	59.5 (6.8)	肺炎	31.6 (3.6)	不慮の事故	29.4 (3.3)
70～74	悪性新生物	583.2 (43.6)	心疾患(高血圧性を除く)	193.6 (14.5)	脳血管疾患	96.8 (7.2)	肺炎	61.1 (4.6)	不慮の事故	52.6 (3.9)
75～79	悪性新生物	927.1 (36.1)	心疾患(高血圧性を除く)	322.0 (12.5)	脳血管疾患	215.0 (8.4)	肺炎	190.2 (7.4)	不慮の事故	101.6 (4.0)
80～84	悪性新生物	1277.9 (26.4)	心疾患(高血圧性を除く)	763.8 (15.8)	脳血管疾患	480.9 (9.9)	肺炎	467.6 (9.7)	老衰	220.5 (4.6)
85～	心疾患(高血圧性を除く)	2040.1 (17.1)	老衰	1985.6 (16.6)	悪性新生物	1790.7 (15.0)	肺炎	1327.4 (11.1)	脳血管疾患	1202.0 (10.0)
注	・死因順位に用いる分類については巻頭の付表を参照。 ・乳児の死因については、乳児死因分類による。 ・死亡率は日本人の事件件数を分子、総人口を分母として算出したものである。 ・率の上段は各年齢階級における人口10万対死亡率、下段は各年齢階級の死亡総数に占める割合(%)。									

(3) 三大死因及び糖尿病による死亡数及び死亡率

「悪性新生物」、「心疾患」及び「脳血管疾患」の三大死因並びに「糖尿病」による死亡数及び死亡率の推移は、表9、図8のとおりである。平成25年においては、「心疾患」、「脳血管疾患」、「糖尿病」の死亡率が全国値を上回っている。

表9 三大死因及び糖尿病による死亡数及び死亡率（人口10万人対）の推移

年次	死 亡 数				死 亡 率 (人口10万人対)							
	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	糖尿病	悪性新生物		心疾患		脳血管疾患		糖 尿 病	
					三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国	三重県	全国
昭和25年	1,190	950	1,814	50	78.8	77.4	65.0	64.2	124.1	127.1	3.4	2.4
30	1,421	1,073	2,022	54	95.7	87.1	66.8	60.9	136.1	136.1	3.6	2.5
35	1,677	1,323	2,501	102	112.9	100.4	91.0	73.2	168.4	160.7	6.9	3.4
40	1,847	1,479	2,769	115	122.0	108.4	98.3	77.0	182.8	175.8	7.6	5.2
45	2,050	1,682	3,092	176	133.6	116.3	109.8	86.7	201.6	175.8	11.5	7.4
50	2,243	1,838	3,075	197	137.9	122.6	113.0	89.2	189.1	156.7	12.1	8.1
55	2,480	2,176	2,742	168	146.7	139.1	128.7	106.2	162.2	139.5	9.9	7.3
60	2,723	2,472	2,584	184	156.6	156.1	142.2	117.3	148.7	112.2	10.6	7.7
平成2年	3,137	2,910	2,247	185	176.0	177.2	163.3	134.8	126.1	99.4	10.4	7.7
7	3,808	2,341	2,566	278	208.7	211.6	128.3	112.0	140.6	117.9	15.2	11.4
12	4,409	2,359	2,108	245	240.5	235.2	128.7	116.8	115.0	105.5	13.4	9.8
17	4,628	2,877	2,175	247	252.5	258.3	157.0	137.2	118.7	105.3	13.5	10.8
22	5,058	2,890	1,902	227	277.7	279.7	158.7	149.8	104.4	97.7	12.5	11.4
23	5,218	2,841	1,966	246	282.3	283.2	153.7	154.5	106.4	98.2	13.3	11.6
24	5,123	2,764	1,921	247	278.6	286.6	150.3	157.9	104.5	96.5	13.4	11.5
25	5,229	2,936	1,857	227	285.9	290.3	160.5	156.5	101.5	94.1	12.4	11.0
26	5,172	2,986	1,772	206	284.1	293.5	164.0	157.0	97.3	91.1	11.3	11.9



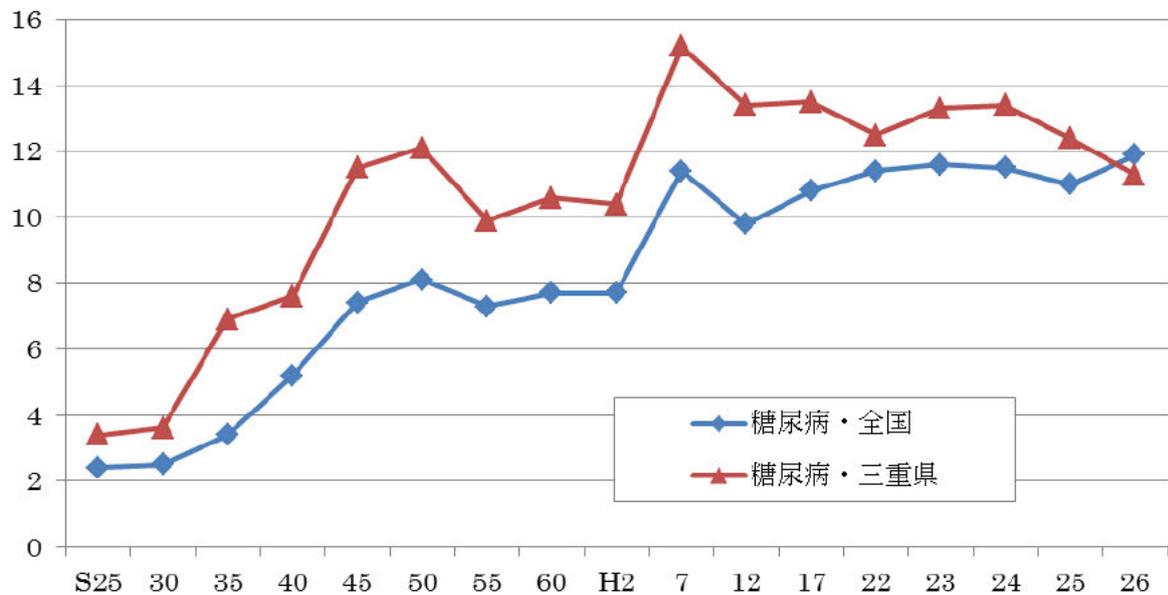
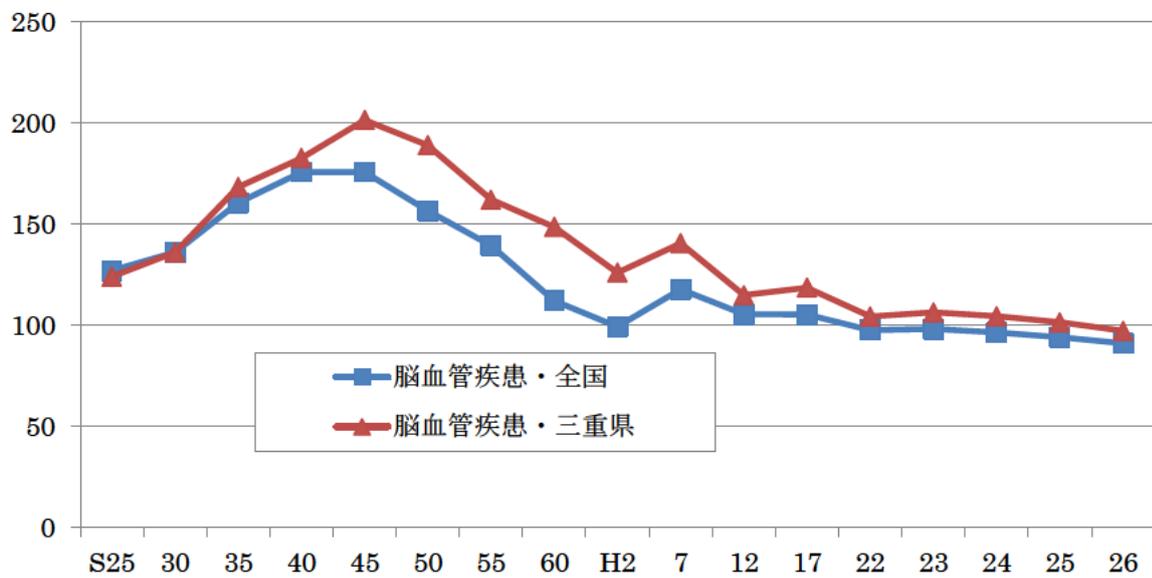
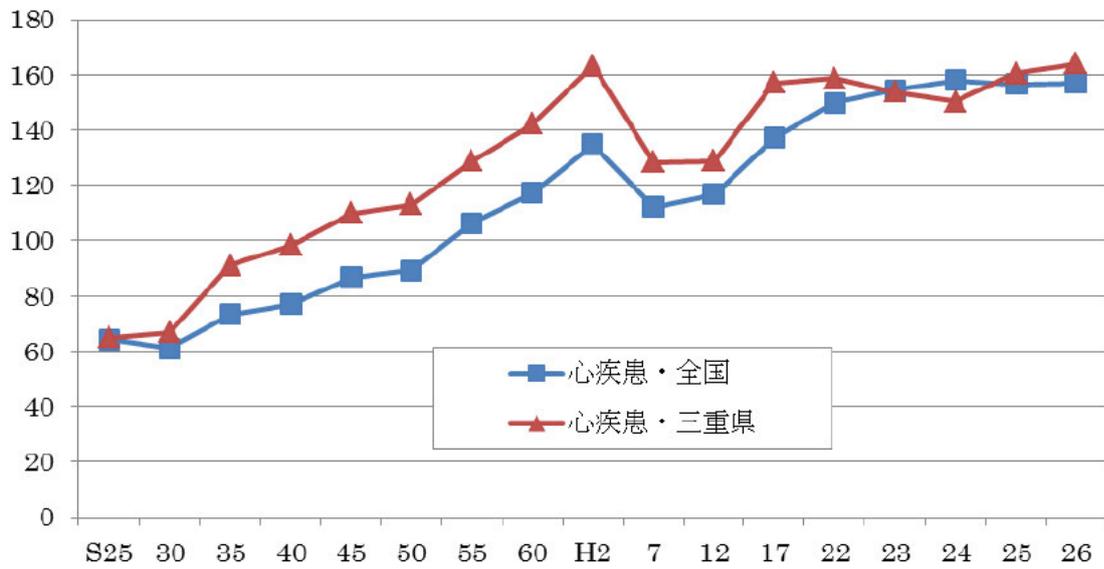


図8 三大死因及び糖尿病による死亡率（人口10万対）の推移

(4) 悪性新生物の部位別死亡数及び死亡率

部位別にみた悪性新生物の死亡数及び死亡率は、表10のとおりである。前年の値と比較すると、「腭」、「食道」、「白血病」等が死亡数、死亡率ともに増加し、「気管、気管支及び肺」、「直腸S状結腸移行部及び直腸」、「胃」等が減少している。

表10 悪性新生物の部位別死亡数及び死亡率

	死亡数(三重県)			死亡率(人口10万対)			
	三重県			三重県		全国	
	平成26年	平成25年	対前年増減数	平成26年	平成25年	平成26年	平成25年
総数	5172	5,229	△57	288.5	290.2	293.5	290.3
口唇、口腔及び咽頭	81	103	△25	4.5	5.7	5.9	5.7
食道	153	133	20	8.5	7.4	9.2	9.2
胃	676	726	△50	37.7	40.3	38.2	38.7
結腸	462	450	12	25.8	25.0	26.5	26.0
直腸S状結腸移行部及び直腸	187	249	△62	10.4	13.8	12.1	11.9
肝及び肝内胆管	374	365	9	20.9	20.3	23.6	24.0
胆のう及びその他の胆道	248	232	16	13.8	12.9	14.4	14.5
膵	488	462	26	27.2	25.6	25.3	24.4
喉頭	16	14	2	0.9	0.8	0.8	0.8
気管、気管支及び肺	1,107	1,195	△88	61.7	66.3	58.5	57.9
皮膚	24	13	11	1.3	0.7	1.3	1.2
乳房	156	170	△14	8.7	9.4	10.6	10.5
子宮	83	71	12	9	7.7	10	9.4
卵巣	60	57	3	6.5	6.2	7.5	7.3
前立腺	185	172	13	21.2	19.6	18.9	18.9
膀胱	111	128	△17	6.2	7.1	6.2	6.1
中枢神経系	28	23	5	1.6	1.3	1.9	1.8
悪性リンパ腫	165	156	9	9.2	8.7	9.2	9.0
白血病	122	106	16	6.8	5.8	6.5	6.5
その他のリンパ組織、造血組織及び関連組織	68	62	6	3.8	3.4	3.4	3.3
その他(上記以外)	378	342	36	21.1	19.0	21.7	21.1

注) ・子宮、卵巣の死亡率は人口10万対の値である。

・前立腺の死亡率は男子人口10万対の値である。

・算出に用いる人口は、厚生労働省公表の日本人人口である。

## 5. 乳児死亡

乳児死亡数及び死亡率並びに新生児死亡数及び死亡率の推移は、表 1 1 及び図 9 のとおりである。前年と比較して乳児死亡数は 17 人減、新生児死亡数は 7 人減であった。

また、乳児死亡率は 2.0 と対前年 1.0 ポイントの低下となり、新生児死亡率は 1.1 と、対前年 0.4 ポイントの低下となった。

表 1 1 年次別乳児死亡数及び新生児死亡数

年次	出生数	乳児死亡数	新生児死亡数	乳児死亡率		新生児死亡率	
				三重県	全国	三重県	全国
昭和 25 年	37,240	2,514	...	66.9	60.1	...	27.4
30	25,456	1,068	585	41.8	39.8	22.7	22.3
35	24,113	787	429	32.6	30.7	17.8	17.0
40	27,057	522	325	19.3	18.5	12.0	11.7
45	26,154	347	241	13.3	13.1	9.2	8.7
50	25,862	244	182	9.4	10.0	7.0	6.8
55	21,446	165	107	7.7	7.5	5.0	4.9
60	19,745	118	79	6.0	5.5	4.0	3.4
平成 2 年	17,917	92	61	5.1	4.6	3.4	2.6
7	17,500	87	47	5.0	4.3	2.7	2.2
12	17,726	57	28	3.2	3.2	1.6	1.8
17	15,345	33	18	2.2	2.8	1.2	1.4
18	15,816	45	25	2.8	2.6	1.6	1.3
19	15,716	59	26	3.8	2.6	1.7	1.3
20	15,633	41	22	2.6	2.6	1.4	1.2
21	15,614	37	17	2.4	2.4	1.1	1.2
22	15,262	37	14	2.4	2.3	0.9	1.1
23	15,080	37	16	2.5	2.3	1.1	1.1
24	14,729	48	15	3.3	2.2	1.0	1.0
25	14,514	44	22	3.0	2.1	1.5	1.0
26	13,727	27	15	2.0	2.1	1.1	0.9

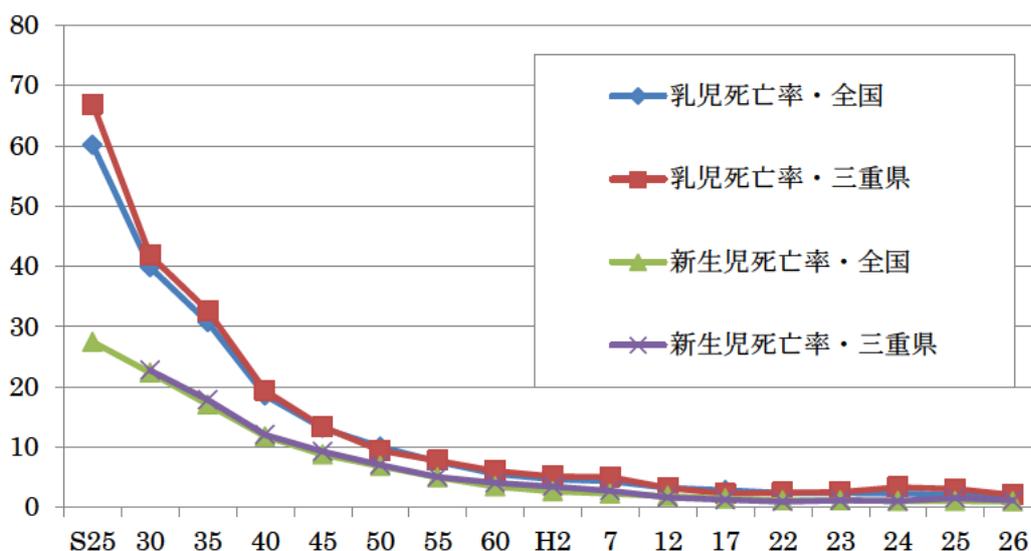


図 9 乳児死亡率及び新生児死亡率の推移

## 6. 死産

死産数及び死産率の推移は、表12及び図10のとおりである。自然死産数は14胎増、人工死産数は10胎減となっており、自然死産数が人工死産数を上回っている。

自然死産率は1.5ポイントの増加、人工死産率は0.1ポイントの低下となっている。

表12 年次別死産数及び死産率

年次	死産数			死産率						人工死産の割合(%)	
	三重県			三重県			全国			三重県	全国
	総数	自然	人工	総数	自然	人工	総数	自然	人工		
昭和 25年	3,453	1,604	1,849	83.5	38.8	44.7	84.9	41.7	43.2	53.5	50.9
30	2,703	1,178	1,525	95.0	41.4	53.6	95.8	44.5	51.3	56.4	53.6
35	2,584	1,304	1,280	96.7	48.4	47.9	100.4	52.3	48.1	49.5	47.9
40	2,145	1,136	1,009	73.5	38.9	34.6	81.4	47.6	33.8	47.0	41.5
45	1,912	1,161	751	68.2	41.4	26.8	65.3	40.6	24.7	39.3	37.8
50	1,349	858	491	49.6	31.5	18.0	50.8	33.7	17.1	36.3	33.7
55	1,007	568	439	44.8	25.3	19.6	46.8	28.8	18.0	43.6	38.5
60	841	385	456	40.9	18.7	22.2	46.0	22.1	23.9	54.2	52.0
平成 2年	717	314	403	38.5	16.9	21.6	42.3	18.3	23.9	56.2	56.6
7	509	230	279	28.3	12.8	15.5	32.1	14.9	17.2	54.8	53.7
12	496	221	275	27.2	12.1	15.1	31.2	13.2	18.1	55.4	57.8
17	417	178	239	26.5	11.3	15.2	29.1	12.3	16.7	57.3	57.6
18	426	198	228	26.2	12.2	14.0	27.5	11.9	15.6	53.5	56.6
19	363	172	191	22.6	10.7	11.9	26.2	11.7	14.5	52.6	55.3
20	349	160	189	21.8	10.0	11.8	25.2	11.3	13.9	54.2	55.2
21	339	156	183	21.2	9.8	11.5	24.6	11.1	13.5	54.0	54.8
22	335	182	153	21.5	11.7	9.8	24.2	11.2	13.0	45.7	53.9
23	333	167	166	21.6	10.8	10.8	23.9	11.1	12.8	49.8	53.6
24	319	152	167	21.2	10.1	11.1	23.4	10.8	12.6	52.4	53.8
25	304	143	161	20.5	9.7	10.9	22.9	10.4	12.5	53.0	54.6
26	308	157	151	21.9	11.2	10.8	22.9	10.6	12.3	49.0	53.6

注) 死産率は死産数を出産数(死産数に出生数を加えたもの)で除している。

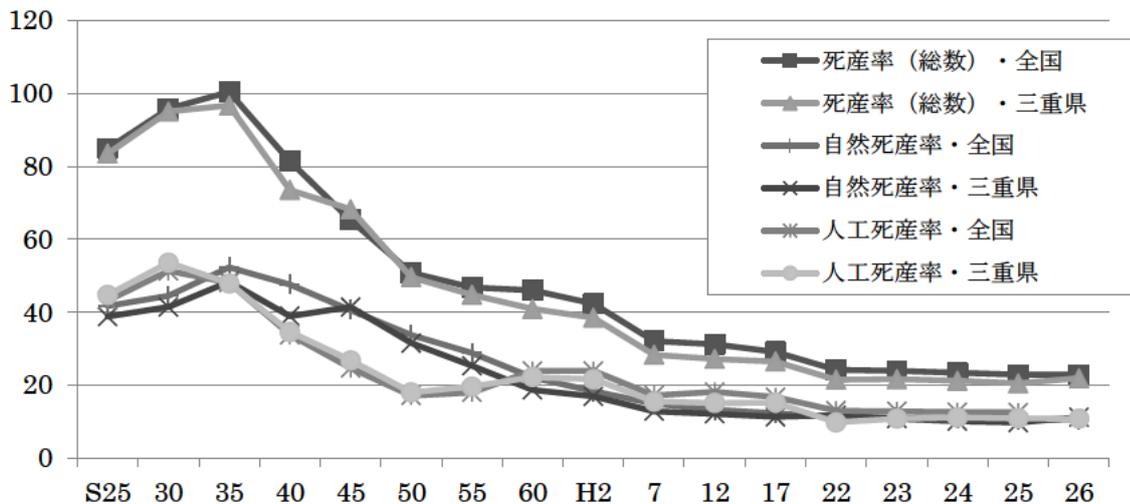


図10 死産率の推移

## 7. 婚姻及び離婚

婚姻件数及び婚姻率並びに離婚件数及び離婚率の推移は、表13、図11及び図12のとおりである。前年と比べ婚姻件数は289件減少し、婚姻率は0.1ポイント低下している。

また、平均初婚年齢については変化がなく、離婚件数は183件の減少となっている。

表13 年次別婚姻件数及び婚姻率、平均初婚年齢、離婚件数及び離婚率

年次	婚姻件数		婚姻率		平均初婚年齢(歳)				離婚件数		離婚率	
	三重県	全国	三重県	全国	三重県		全国		三重県	全国	三重県	全国
					夫	妻	夫	妻				
昭和25年	11,782	8.1	8.6	25.3	22.6	25.9	23.0	1,259	0.86	1.01		
30	11,930	8.0	8.0	26.1	23.2	26.6	23.8	1,016	0.68	0.84		
35	13,002	8.8	9.3	26.8	23.8	27.2	24.4	833	0.56	0.74		
40	12,838	8.5	9.7	27.0	23.9	27.2	24.5	932	0.62	0.79		
45	13,874	9.0	10.0	26.7	23.7	26.9	24.2	1,098	0.71	0.93		
50	12,454	7.7	8.5	26.8	24.2	27.0	24.7	1,236	0.76	1.07		
55	9,922	5.9	6.7	27.5	24.5	27.8	25.2	1,589	0.95	1.22		
60	10,005	5.8	6.1	27.7	24.7	28.2	25.5	1,869	1.08	1.39		
平成2年	9,779	5.4	5.9	27.8	25.2	28.4	25.9	1,918	1.08	1.28		
7	10,631	5.8	6.4	28.2	25.8	28.5	26.3	2,510	1.38	1.60		
12	11,271	6.1	6.4	28.3	26.5	28.8	27.0	3,549	1.94	2.10		
17	9,640	5.3	5.7	29.2	27.5	29.8	28.0	3,700	2.02	2.08		
18	9,889	5.4	5.8	29.6	27.7	30.0	28.2	3,508	1.91	2.04		
19	9,919	5.4	5.7	29.6	27.7	30.1	28.3	3,377	1.84	2.02		
20	9,937	5.4	5.8	29.8	28.0	30.2	28.5	3,402	1.86	1.99		
21	9,720	5.3	5.6	29.8	28.1	30.4	28.6	3,438	1.89	2.01		
22	9,396	5.2	5.5	30.0	28.2	30.5	28.8	3,461	1.90	1.99		
23	8,947	4.9	5.2	30.2	28.4	30.7	29.0	3,264	1.80	1.87		
24	9,006	5.0	5.3	30.3	28.6	30.8	29.2	3,237	1.79	1.87		
25	8,844	4.9	5.3	30.5	28.7	30.9	29.3	3,281	1.82	1.84		
26	8,555	4.8	5.1	30.5	28.7	31.1	29.4	3,098	1.73	1.77		

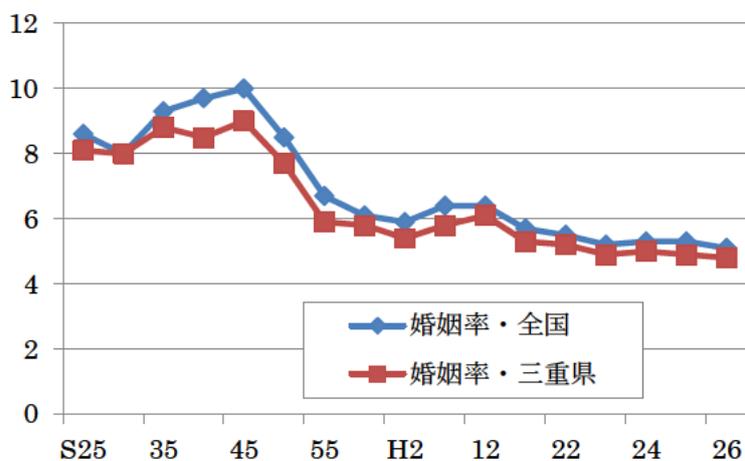


図11 婚姻率の推移

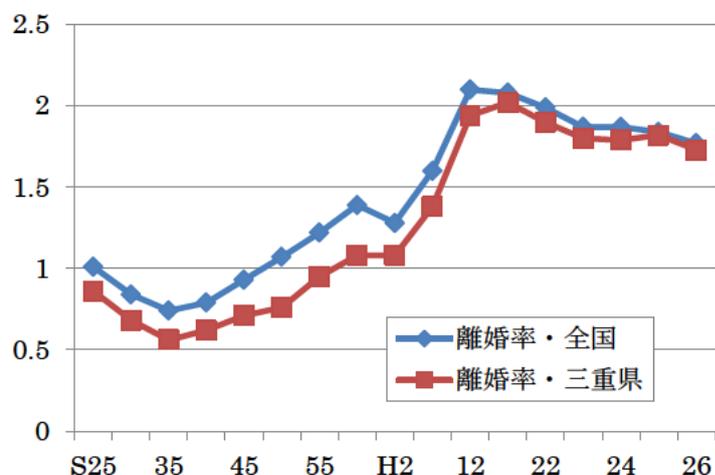


図12 離婚率の推移

## 8. 地域別にみた人口動態

### (1) 人口動態総覧

県内地域別にみた人口動態調査の結果（率）は、表14および図13のとおりである。出生率は北勢地域で高く、東紀州地域で低い値となっている。一方で、死亡率は東紀州地域で高く、北勢地域で低い値となっている。

また、婚姻率は北勢地域で高く、合計特殊出生率は東紀州地域で高いなどの特性がみられる。

### (2) 死因順位

県内地域別にみた死因順位は、表15のとおりである。全ての保健所管内において、1位「悪性新生物」、2位「心疾患」となっており、3位は「脳血管疾患」、「肺炎」等となっている。

表14 地域別人口動態の主要指標

	出生率	死亡率	自然増減率	乳児死亡率	新生児死亡率	死産率			婚姻率	離婚率	合計特殊出生率
						総数	自然	人工			
三重県	7.7	10.9	△ 3.2	2.0	1.1	21.9	11.2	10.8	4.8	1.73	1.45
北勢地域	8.2	9.0	△0.8	2.2	1.3	22.3	10.4	11.9	5.1	1.80	1.51
中勢伊賀地域	7.2	11.0	△3.8	0.6	0.3	21.9	12.0	9.9	4.5	1.70	1.39
南勢志摩地域	7.0	12.4	△5.5	3.1	1.6	20.6	11.1	9.5	4.3	1.57	1.48
東紀州地域	5.3	17.8	△12.5	-	-	27.6	20.1	7.5	3.3	1.39	1.67
四日市市保健所	8.3	9.2	△ 1.0	4.3	2.4	24.3	10.8	13.5	5.4	1.79	1.50
桑名保健所	7.9	9.2	△ 1.3	0.4	0.4	21.7	8.7	13.0	4.6	1.61	1.47
鈴鹿保健所	8.5	8.5	0.0	1.4	0.9	20.4	11.6	8.8	5.4	2.05	1.57
津保健所	7.3	10.8	△ 3.5	0.5	-	23.8	14.3	9.5	4.6	1.64	1.39
松阪保健所	7.5	11.4	△ 3.9	3.8	2.5	23.2	13.5	9.8	4.7	1.85	1.47
伊勢保健所	6.5	13.3	△ 6.8	2.5	0.6	17.9	8.7	9.3	4.0	1.32	1.50
伊賀保健所	7.0	11.3	△ 4.3	0.8	0.8	18.7	8.1	10.6	4.4	1.80	1.41
尾鷲保健所	4.8	18.3	△ 13.5	-	-	40.0	28.6	11.4	3.2	1.50	1.61
熊野保健所	5.8	17.3	△ 11.6	-	-	17.9	13.4	4.5	3.4	1.28	1.73

注) ・三重県全体の率は、日本人に関する事件件数を分子、日本人人口を分母として算出している。  
 ・地域別及び保健所別の率は、日本人に関する事件件数を分子、外国人を含む総人口を分母として算出している。

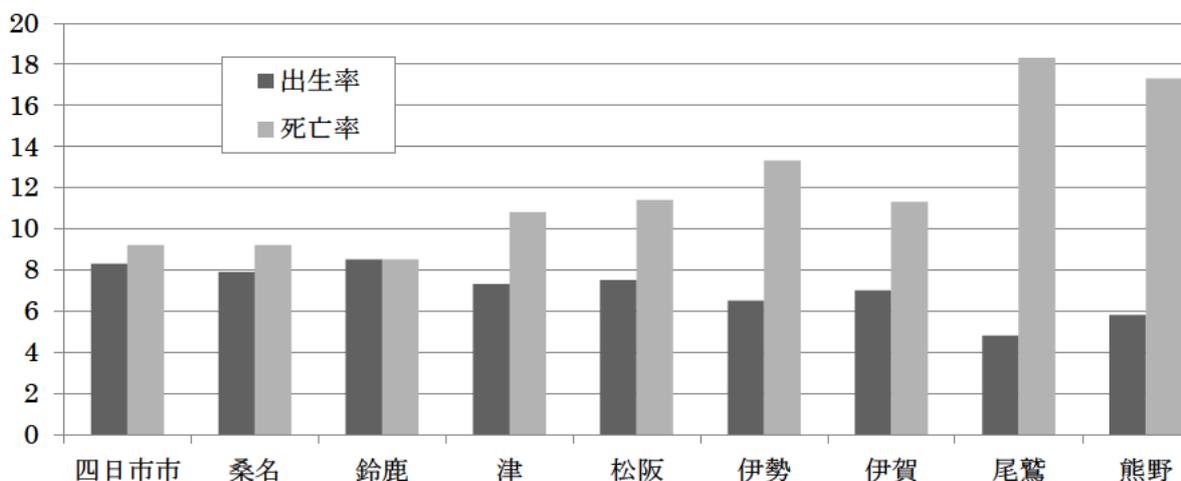


図13 保健所別出生率及び死亡率

表 1 5 地域別にみた死因順位－死亡率（人口 1 0 万対）・割合（％）

年齢階級	1		2		3		4		5	
	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率	死因	率
全県	悪性新生物	284.1 (26.5)	心疾患(高血圧性を除く)	164.0 (15.3)	脳血管疾患	97.3 (9.1)	肺炎	92.2 (8.6)	老衰	92.2 (8.6)
北勢	悪性新生物	250.4 (27.7)	心疾患(高血圧性を除く)	142.5 (15.8)	肺炎	78.1 (8.7)	脳血管疾患	76.7 (8.5)	老衰	68.8 (7.6)
中勢伊賀	悪性新生物	284.6 (25.8)	心疾患(高血圧性を除く)	159.4 (14.5)	脳血管疾患	109.5 (9.9)	老衰	105.7 (9.6)	肺炎	98.9 (9.0)
南勢志摩	悪性新生物	319.0 (25.7)	心疾患(高血圧性を除く)	192.5 (15.5)	脳血管疾患	114.9 (9.3)	老衰	110.6 (8.9)	肺炎	102.0 (8.2)
東紀州	悪性新生物	447.6 (25.2)	心疾患(高血圧性を除く)	259.8 (14.6)	老衰	160.5 (9.0)	肺炎	149.6 (8.4)	脳血管疾患	148.3 (8.3)
四日市市保健所	悪性新生物	268.2 (29.0)	心疾患(高血圧性を除く)	147.3 (16.0)	脳血管疾患	77.1 (8.3)	老衰	70.9 (7.7)	肺炎	65.0 (7.0)
桑名保健所	悪性新生物	249.9 (27.1)	心疾患(高血圧性を除く)	133.1 (14.4)	肺炎	92.1 (10.0)	老衰	82.2 (8.9)	脳血管疾患	73.4 (8.0)
鈴鹿保健所	悪性新生物	228.9 (26.8)	心疾患(高血圧性を除く)	147.4 (17.2)	脳血管疾患	79.9 (9.4)	肺炎	78.3 (9.2)	老衰	50.9 (6.0)
津保健所	悪性新生物	267.2 (24.7)	心疾患(高血圧性を除く)	155.4 (14.4)	脳血管疾患	114.4 (10.6)	肺炎	106.2 (9.8)	老衰	90.9 (8.4)
松阪保健所	悪性新生物	298.5 (26.1)	心疾患(高血圧性を除く)	164.0 (14.4)	脳血管疾患	114.3 (10.0)	肺炎	105.9 (9.3)	老衰	84.3 (7.4)
伊勢保健所	悪性新生物	336.9 (25.3)	心疾患(高血圧性を除く)	217.4 (16.4)	老衰	133.5 (10.0)	脳血管疾患	115.4 (8.7)	肺炎	98.7 (7.4)
伊賀保健所	悪性新生物	313.1 (27.6)	心疾患(高血圧性を除く)	166.1 (14.7)	老衰	130.0 (11.5)	脳血管疾患	101.4 (9.0)	肺炎	86.9 (7.7)
尾鷲保健所	悪性新生物	480.7 (26.3)	心疾患(高血圧性を除く)	251.6 (13.8)	脳血管疾患	172.5 (9.4)	老衰	172.5 (9.4)	肺炎	161.2 (8.8)
熊野保健所	悪性新生物	416.9 (24.1)	心疾患(高血圧性を除く)	267.4 (15.4)	老衰	149.5 (8.6)	肺炎	139.0 (8.0)	脳血管疾患	125.9 (7.3)
注	・死因順位に用いる分類については巻頭の付表を参照。 ・死亡率は日本人の事件件数を分子、総人口を分母として算出したものである。 ・率の上段は各年齢階級における人口10万対死亡率、下段は各年齢階級の死亡総数に占める割合(%)。									